

## △エストリオール錠, ▼ホーリン錠 [内]

- 【重要度】 【一般製剤名】 エストリオール estriol 【分類】 卵巣ホルモン製剤
- 【単位】 △1mg/錠
- 【常用量】 適用疾患により 1回 0.1~1.0mg
- 【用法】 1日2回
- 【透析患者への投与方法】 減量の必要なし (5)
- 【保存期 CKD 患者への投与方法】 減量の必要なし (5)
- 【特徴】 卵巣ホルモンであり, 更年期障害, 膣炎 (老人, 小児及び非特異性), 子宮頸管炎並びに子宮腔部びらん<sup>1)</sup>に用いられる
- 【主な副作用・毒性】 血栓症, 過敏症, 肝障害, 消化器症状など
- 【代謝】 グルクロン酸抱合される (1)
- 【排泄】 尿中に 85%回収される (1) 尿中の回収物はほとんどグルクロン酸抱合体で未変化体や硫酸抱合体は少ない (1)
- 【蛋白結合率】 データなし (1)
- 【Vd】 データなし (1)
- 【MW】 288.38
- 【透析性】 データなし (1)
- 【備考】 老人性骨粗鬆症への投与時は投与後 6 か月~1 年後に骨密度を測定し効果判定する (1) 【禁忌】 動脈性血栓性疾患 (既往を含む) (1)
- 【更新日】 20161207

※正確な情報を掲載するように努力していますが、その正確性、完全性、適切性についていかなる責任も負わず、いかなる保証もいたしません。本サイトは自己の責任で閲覧・利用することとし、それらを利用した結果、直接または間接的に生じた一切の問題について、当院でいかなる責任も負わないものとします。最新の情報については各薬剤の添付文書やインタビューフォーム等でご確認ください。

※本サイトに掲載の記事・写真などの無断転載・配信を禁じます。すべての内容は、日本国著作権法並びに国際条約により保護されています。